

## 平成23年度第3回平塚市文化振興委員会会議録

【日 時】平成24年3月16日（金）14:00～16:00

【会 場】平塚市民センター2階 くすのき

【出席者】

委員7名：岩崎由紀子委員、山川勝久委員、小中山彰委員長、牛田洋子委員、中野恵子委員、平野恵美子副委員長、森伸一委員

（欠席：石川幹夫委員、片山興大委員、関本耕司委員）

事務局3名：文化・交流課長 課長代理 担当者

傍聴人：なし

配布物：

- 1 平成23年度第3回次第
- 2 平成23年度第2回会議録
- 3 資料①平成23年度基金活用事業進捗状況
- 4 資料②小学校アウトリーチ報告
- 5 資料③平成24年度基金活用予定
- 6 資料④平成23年度文化振興に係る会議等進行状況

### 1. 開会

文化・交流課長

### 2. 会議録の確認

質問、意見等なし

### 3. 議題

#### (1) 平成23年度基金活用事業進捗状況について

資料：①平成23年度基金活用事業進捗状況

事務局より説明

- 木谷實九段殿堂入り記念事業では星のプラザでの記念展示、中央図書館1階ロビーでの展示、日本棋院見学ツアーを実施した。ツアーには子どもから高齢者まで52名が参加した。参加者からは大変好評だった。
- プロ棋士に教わる囲碁教室は棋力で5級以上の小中学生を対象に開催した。こども囲碁教室で囲碁を学び始めて、力を付けた子ども達をフォローする位置付けで継続して取り組んでいきたい。この教室の受講生の中で、県の囲碁大会等上位入賞者や日本棋院の院生も誕生している。
- 若手音楽アーティストオーディションを検討するため、文化庁からアドバイザー派遣を受けた。プロオーケストラ等の協力を得て一定レベルを確保する審査方法によるオーディションを中長期で実施する企画を検討したが、平成24年度事業に向けての予算編成作業の中、財源の確保等に不確定な要素があることから、再度内容を検討することとなった。
- ミニコンサート等の開催として、子ども達を対象に本物の音楽に触れてもらう機会を創出する目的の、プロアーティストによる少人数向けのプログラムを小学校2校で開催した。また昨年4月に市役所市民ホールを会場に昼休みに神奈川フィルによるコンサートを開催した。3月18日には市民センターで神奈川フィルによるファミリーコンサートを予定している。
- 財団法人平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の文化事業全体の実施に対して基金を活用している。
- 予算額については各事業変更なく、執行残については事業毎に精算し基金に戻す手続きをする。

質問・意見等は次の議題の説明後にまとめる

#### (2) 小学校アウトリーチ報告について

資料：②小学校アウトリーチ報告

事務局より説明

- 今年度秋に小学校校長会で実施希望校の募集を行い、2校の希望があった。平成24年1月24日（火）にみ

ずほ小学校で、1月26日（木）には金田小学校でアウトリーチを実施した。2校とも全国各地から学校アウトリーチの依頼を受けているプロのバイオリニスト早稲田桜子さん、ピアノの早稲田真里さんへお願いした。会場は音楽室で、鑑賞、バイオリンに触れるなどの体験ができた。学校からは、これまでになかった鑑賞経験ができた、今後もこの事業の拡大・継続を望む声をいただいた。

#### 質問、意見等

委員：まずはオーディションを実施して地元音楽アーティストの育成に手掛けてからアウトリーチなどを実施するのかとイメージしていた。アウトリーチが先に実現したことに少し驚いている。地元、近隣にノウハウがないわけではなく、平塚市でも10年程前にオーディションを実施した経緯がある。藤沢市では継続してオペラのオーディションを実施しているし、学校派遣なども経験している。外部のアドバイザーに依頼することで費用が高く、丸投げという姿勢になってもいけない。地元にいる平塚音楽家協会に相談していただくこともできると思うので、地元の若手を育てるということを考えているのであればそういうところにも登用して行ってほしいと思う。地元の奏者でロビーコンサート等を実施した例もある。そのような事業を継続して実施して若手の活動の場を増やしたいということを強く願っている。

事務局：まず、アドバイザーについては文化庁の予算で派遣を受けているので平塚市文化振興基金からの支出はない。オーディションについてのアドバイスは事務局にノウハウが何もなかったのをお願いをした。鳥取県立の会館で実際にオーディションや、文化事業のプロデューサーをやっている女性の方で、いろいろな情報を提供していただいた。職員の研修のような内容が主なものだったので、その方が平塚のオーディションを仕切るということではない。地元アーティストで学校派遣ができないかということであるが、今回は地域のホール向けに学校アウトリーチの企画を積極的にやっている登録アーティストを依頼した。（財）地域創造という、全国的に公共ホールの活性化のための事業提案やアーティストの育成を実施している組織で、アウトリーチについてかなりの研修を受けている演奏家の方々が登録している。23年度当初、小学校への派遣という具体的な案はなかったが、子供たちに本物の音楽鑑賞の機会を与えたいという構想はあった。平塚市民センターで毎年行われる市内小学校合同の活動発表会にゲストでプロの演奏家の時間がとれないか等も検討した。結果的にアウトリーチということになり、下半期になってから実施校も調整できた。アウトリーチにも将来的には地元のアーティストを使っていきたいということは考えている。

委員：すべて文化庁の予算か。

事務局：アウトリーチについての予算は25万円だった。謝礼と体験用楽器のレンタル費用で、アドバイザーにはまったく費用はかかっていない。

委員：プログラムは本当にこの内容だったのか。1日3回もこのプログラムをやるのは演奏家にとっては無理ではないかと思うが。

事務局：ハードだとは思いますが実際にやっていただいた。

委員：もっと少ない方が子どもたちにはいいプログラムだったのではないかと思う。また、手を挙げた学校だけでなく、全ての学校へ行けるように調整して行って欲しい。4、5年の間には全校で実施できるような方針に教育委員会と連携するとよいのではないか。ロータリーのやっている芸術鑑賞もあるのでそういうものともかぶらないように配慮した方がよい。（財）平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の主催している幼稚園への演奏家派遣という事業があるが、演奏家は少ない謝礼で出向いている。10年前のオーディションで発掘した人たちも活躍しているので、そういった人を活用してほしいし、第2回目のオーディションを早く実施してほしいと願っている。

委員：オーディションについて予算がつかなかったのはどういった点が問題だったのか。

事務局：継続的な取り組みが必要な事業であると考え、単年度の実施ではなく2年または3年に1度実施できるように、中長期的な事業という方向で企画した。またオーディションだけでなく育成のためにコンサート等も計画していかなければいけないということを主張したところ、複数年に渡って予算化が約束できないということもあり、再検討ということになった。23年度に当初この事業の準備資金として40万円予算化していたが着手に至らず、執行がなかったので平塚市文化振興基金に戻すこととなった。オーディションを実施できるとしたら楽器別に部門も複数設けたいと考えた。完全にあきらめたわけではないが、今のところ財政的に着手はできないという状態。規模や実施方法を工夫して、平塚市文化振興指針に掲げるアーティスト支援につながる事業として引き続き実施を目指したいと考えている。

委員：オーディションを実施するならば良く練って、継続できる形にしなければいけないと思う。

子ども向けの教育的な事業ということになると、音楽家は想いがあれば本当に安い謝礼でお願いできるケースがある。アウトリーチの希望校が昨年度2校だったというのは驚いたが、よい事業なのできっと増えていこう。五島みどりさんが以前に全国で10カ所学校をまわるという事業があった。平塚へ来てもらえるとは思わなかったが叶ったということがある。縁があると中央で活躍する一流の演奏家を呼ぶこともできる。今回の2校では対象の人数もかなり違うが演奏家の方の感想などは聴いているか。

事務局：こういった形態での演奏に慣れた演奏家の方で、どちらも音楽室での実施という点ではよい雰囲気できたという印象を持ってもらったと思う。体育館などでやることもあるそうだが、距離が近く人数も少ないほど子ども達の集中力がよい。来年度もぜひやってほしいという要望は学校側から聞いている。下半期になってからの調整にも関わらず手を挙げてくれた学校が2校あり、1月に実施できたことは本当に良かったと感じている。インフルエンザの流行等もあるので、早目の調整を今後は心がけていきたい。

委員：学校では次年度の計画を1月くらいから準備し始める。学校にはカリキュラムの都合、やらなければいけないイベントが山のようにある。タイミングがあえば多くの学校から手が挙がると思うが、年度途中にこういったものを準備するのは非常に困難であったらと思う。

委員：アウトリーチの対象人数は、少なくても非常にいいと思う。このような形態で鑑賞の機会を与えることは、少しずつでも長く続けていってほしい。

### (3) 平成24年度基金活用事業計画について

#### 資料：③平成24年度基金活用事業計画

○1の囲碁文化振興事業では、事業2つを予定している。1つは囲碁の魅力に触れる機会の創出として、23年度の日本棋院見学ツアーのようなものを実施していきたい。内容については財団法人平塚市文化スポーツまちづくり振興財団と協力しこれから検討する。2つ目に、プロ棋士に教わる囲碁教室だが、継続的な取り組みが必要であると考えているので、実力をつけた子ども達をどう育てていくか、この受講生が更に羽ばたいていくよう実施していきたい。平成24年度は、各種大会との日程調整や施設確保の点から、月3回の開催として実施する。囲碁文化振興事業として合計110万を予算計上している。

○2の若手音楽アーティストオーディションは先程の説明のとおり、今年度検討したものを再度精査し、実施に向けた環境の整備を行っていく。平成24年度は予算なしとなったが、平成25年度以降の実施に向けて検討を継続する。この事業についても財団法人平塚市文化スポーツまちづくり振興財団文化事業課と意見交換、協議をしていく。

○市民文化啓発事業で2つの事業を予定している。1つはミニコンサート等の開催としているが詳細はこれから検討する。身近で質の高い音楽に触れる機会など、より近くで音楽を楽しめる企画を開催したい。また、アーティスト支援という観点で、コーディネーターのような人材を確保し、助言をいただく機会の確保も必要に応

じ行っていく。2つ目にプロの音楽アーティストの小学校への派遣を継続していく。できれば実施校を最低1校増やし3校以上に拡大したいと考えている。今後、小学校長会等で学校に説明し、実施にあたっては学校、アーティストと協議する。市民文化啓発事業として合計70万を予算計上している。

○最後に、財団法人平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の文化事業に対して基金を活用する。100万円を予算計上している。平成24年度は合計で280万円文化振興基金を活用する予定である。

#### 質問、意見等

委員：アウトリーチやミニコンサートということに予算がとってあるが、各学校では芸術鑑賞の予算があるはずなので、学校派遣よりも先に地元アーティストのオーディションを実施してはどうか。オーディションで発掘した人たちの発表の場として、アウトリーチなどを企画していくという順序の方が理想的ではないかと思う。自分でよければオーディション等の経験もあるのでぜひ力になればと思う。一日も早く、地元の人の活躍の機会を作ってもらえるよう、手伝えることがあれば参加していきたい。演奏家や指導者の知り合いも大勢いるので必要であれば協力を仰ぐこともできる。

事務局：こちらとしても方向性としては同じものを持っている。もちろんオーディションは少しでも早い実現を目指している。学校アウトリーチは学校の要望もありそれとして継続していきたいと考えているが、いずれ地元アーティストの活躍の場になっていくことが理想だと思う。

委員：文化的なことに協力したいという企業もきっとあると思うので、協賛を働きかけるとよいと思う。

委員：学校には確かに芸術鑑賞という機会はあるのだが、アウトリーチの趣旨を見ると、学校での芸術鑑賞とは効果も目的もかなり違うように感じる。全校規模での観劇や、もちろん音楽鑑賞もするが、毎回こういうものが聴けるという場では決していない。近い距離で、演奏家と直接コミュニケーションがとれるこのような内容のものであれば、学校としてはぜひ毎年でもやりたいと思う。ましてや地元のアーティストの活躍に直接触れることができるようになったら、子ども達がそれを目指すであるとか、具体的な変化が表れるのではないか。

委員長：実際に学校現場ではどのような鑑賞の機会があるのか。

委員：年に一度だが、演劇やミュージカルや、本当に様々である。アウトリーチのようなものとは違うので、こういうことを毎年できたら本当にいいと思う。

委員：予定にあるミニコンサートというのはどのようなイメージか。

事務局：ホールに観客を大勢入れて実施するというよりは、普段音楽を聴く機会が少ない方が気軽に楽しめるような場という意味でミニコンサートという表現にした。小さなホールや開かれたスペースで、少ない人数でできたらよいと考えている。

委員：小ホールや、公民館などで200人くらいでの実施するのもよいと思う。

#### (4) 今後の会議について

##### 資料：④平成23年度文化振興に係る会議等進行状況

○平成23年度の文化振興委員会は本日を含めて3回開催した。また庁内検討会議は2回開催で、この委員会の結果と予算編成の結果を3月末に関係各課に周知する予定である。

○この委員会の委員の任期は、平成22年度の委嘱から2年間となっている。基金活用方針や本市の文化振興のあり方について意見をいただいていた。この委員会は、附属機関に準じた市の組織となっているが、現在、平塚市では、附属機関の見直しを実施している。本来附属機関はすべて条例を伴うものであるが、文化振興委員会は条例設置ではなく、要綱による設置となっているため、平成24年度から組織形態、名称を変えて開催していく予定である。平成24年度から懇話会という形で開催する予定だが、これまでの文化振興委員会と役割

は変わらない。平成24年度は新たな名称で開催する予定であり、詳細は後日通知する。

#### 質問、意見等

委員長：この会議では決算報告というのはないが、予算審議の場ではないので必要ではないのか。

事務局：平塚市文化振興基金の活用方針については意見をいただいているがこの会議で決定はしておらず、予算、決算については議会での承認を得て決定している事項になる。事業報告と併せて御説明するという形になる。

委員：庁内検討会議というのはどういう組織か。

事務局：文化関連事業が市役所の中で多岐に渡っており、17課にまたがっている。部局も市長部局、教育委員会と分かれているが、それらの連携のため、情報共有を主な目的にそれらの課で会議を設けている。

委員長：組織の改正という話があったが、24年度以降委員は入れ替えということになるのか。

事務局：委嘱から2年の任期ということで現在の委員会が行われてきたので、厳密には6月まで任期はある。要綱の改正も必要になるが、実態は文化振興に関することに御意見をいただくということに変わりはない。委員構成についてもそのような目的をふまえて学識者、市民委員、文化団体、教育関係、商業関係とお願いしている方々なので、たとえ組織の名称や要綱が変わっても、メンバー構成が大きく変わることはないと考えている。

委員長：新年度、また同様の会議が招集されるとしたらやはり6月以降と考えてよろしいか。

事務局：その予定である。

#### 4. その他

事務局：平成23年度に平塚市文化振興基金の活用という具体的な課題があったため、それに関する意見交換に終始してしまったという反省をもっている。文化振興全般について、より多くの御意見をいただく場として運営していきたいと考えている。今後ともよろしくお願いします。

委員：以前に「たわわ」にも書かせていただいた「ことば館」というものに大きな夢を持っている。新文化センターの建設が実現するときにはぜひこの意見を取り入れていただきたいと思っている。委員としての発言は今年度で終わりかもしれないがぜひよろしくお願いします。

事務局：新文化センターの構想自体は凍結ではなく、見附町周辺地区の開発計画の一部として継続している。新文化センターについて皆様からいただいた御意見のひとつとして、担当課として働きかけていくつもりである。

#### 5. 閉会

文化・交流課長

以上